

追悼2018

あなたを、 忘れない。

「あの人？」

驚き悲しむことが多かったこの一年。
感謝の気持ちとともに振り返る。

写真：東川哲也(写真部)、遠崎智宏、品田裕美、横関一浩、
吉永孝宏、朝日新聞社 構成文：吉川明子

個性派から名優へ

樹木希林

75歳 9月15日没
俳優

1961年デビュー。コミカルな役を皮切りに才能が開花し、日本を代表する名優に。ミュージシャン・内田裕也さんとの独特の夫婦関係も注目の的。

歯に衣着せぬ発言で、独自の生き方を貫く

「死ぬときぐらい好きにさせて 多くの人の心に残っている。

よ。」「オフリーア」に扮した 全身にがんが転移してもなお

樹木さんに、そんなコピーが添 さまざま人生を演じ続けた。

えられた宝島社の企業広告。新 人はいかに生き、いかに死ぬか。

間掲載から2年以上経った今も、 多くを私たちに遺して旅立った。

本誌特集記事も併せてご覧ください。

舞踊家、歌手と多彩に活躍

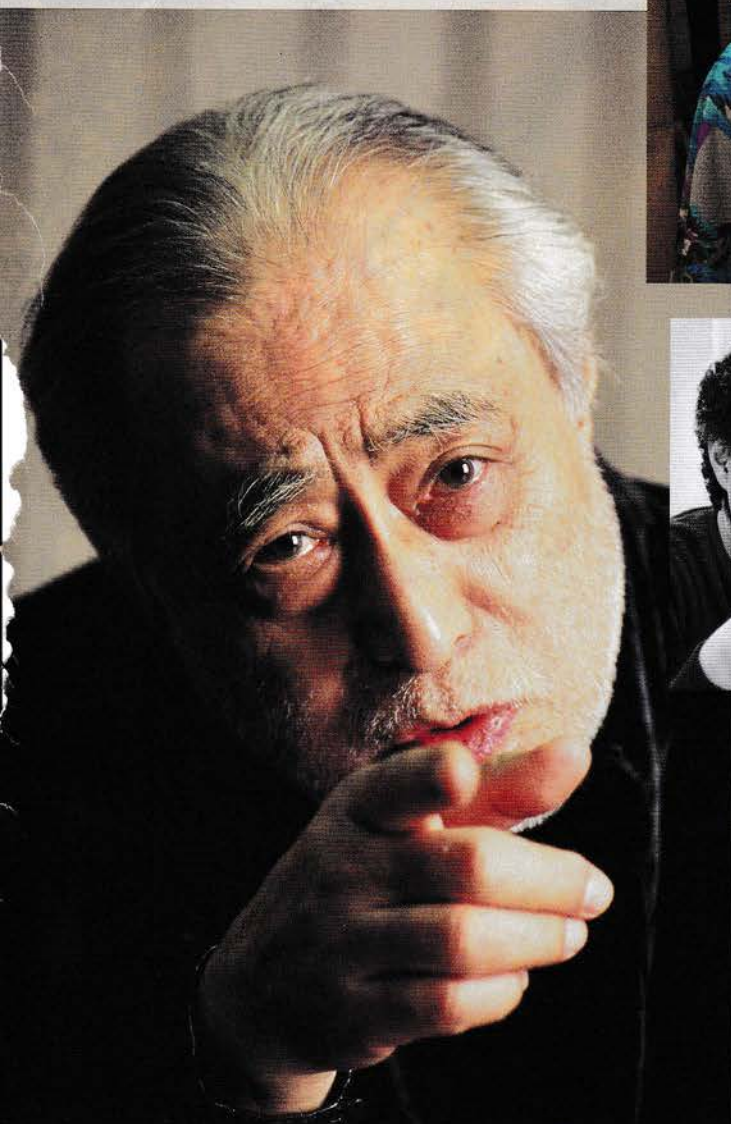
朝丘雪路

82歳 4月27日没
俳優

日本画家・伊東深水を父に持つ。宝塚歌劇団で娘役として活躍し、1955年に退団。その後、映画や舞台の世界へ。晩年はアルツハイマー型認知症で療養



愛嬌たっぷりの『お嬢様』
宝塚歌劇団の娘役にジャズ歌手、日本舞踊の家元、俳優などと多彩に活躍し、人々を魅了。「結婚するまで自分で買い物をしたことがなかった」といったエピソードから、『元祖お嬢様』としてバラエティー番組でも人気に。華やかでいて親しみのある笑顔が印象的だった。



人間の奥深さを演じ続ける

津川雅彦

78歳 8月4日没
俳優

芸能一家に生まれ、幼い頃は子役、中年以降は伊丹十三監督映画で印象的な役柄を数多く演じた。妻の朝丘雪路さんとはおしどり夫婦として有名

齢を重ね、役を広げた
「狂った果実」の純真な弟役、「マルサの女」の人間臭い国税査察官の上司、「別れぬ理由」で見せた中年男の色気……。二枚目から悪役まで、さまざまな役柄を演じた。生粋の映画人としての生き様もまた、人々の心に深く刻まれている。



病を乗り越え、立ち上がる
西城秀樹

63歳 5月16日没
歌手

1972年デビュー。野口五郎さん、郷ひろみさんとともに「新御三家」として熱狂的な人気を博す。脳梗塞発症後も、後遺症を抱えながら歌手活動を継続

1979年8月、雨の後楽園球場で熱唱する西城さん

ヒット曲を最後まで熱唱
「YOUNG MAN (Y.M.C.A.)」「傷だらけのローラ」などのヒット曲を連発。
30代以降も精力的に歌手活動を続けていたが、48歳で脳梗塞を発症。リハビリに励み、「病気のおかげで、僕は歌うことの喜びを知った」と、最後までステージに立ち続けた。



辺野古移設反対を主導

翁長雄志

67歳 8月8日没
前沖縄県知事

那覇市議や県議、那覇市長を歴任し、2014年に県知事就任。米軍普天間飛行場の名護市辺野古への移設に強く反対。任期中に膵がんが発覚し、急逝

沖繩の存在を問い続けた
米軍普天間飛行場の辺野古移設に反対し、埋め立て承認を撤回する手続きを始めた矢先の死。沖繩の存在や地方自治に重い問いかけを突き付けていた。那覇市内で行われた葬儀には、政界関係者や一般市民ら約4500人が参列し、別れを惜しんだ。



鋭い発言で突き進む

野中広務

92歳 1月26日没
元官房長官・元衆院議員

57歳で国政に転じ、自公連立政権の立役者に。2003年の自民党総裁選で小泉純一郎支持議員を「毒まんじゅうを食べた」と激しく非難した

平和を追求した剛腕政治家
京都府園部町議にはじまり、57歳で国政転身。小淵、森政権で官房長官や自民党幹事長を歴任し、剛腕政治家として名を馳せた。一方で、戦争体験に基づく護憲派としても知られ、晩年まで平等や平和といった戦後民主主義の価値を訴え続けた。

後半グラビアページに続きます。

追悼 2018

あなたを、
忘れない。

写真：小林修、加藤夏子（写真部）、
チエンス、下門新次、日刊スポーツ、
朝日新聞社、構成：文、吉川明子

親まれた「笑点」の顔

桂 歌丸

81歳 7月2日没
落語家

横浜の遊郭に生まれ、1968年に真打ち昇進。テレビ番組「笑点」で司会者として人気を博す。肺を患い入院を繰り返しつつも、高座に上がり続けた

後半生は古典落語に注力

テレビ番組「笑点」で、風刺の利いた回答で人気を集め、司会者としても活躍。その一方で、後半生は古典的な落語に身を投じる。肺気腫を患ってからは、鼻に酸素吸入チューブを通して高座に上がった。「死ぬ死ぬ詐欺なんて言われてます」と自らをいじりつつも、客席を江戸古典落語の世界へと誘い続けた。





1980年7月5日、ナゴヤ球場で巨人相手に完封勝利を収めた

「闘将、最後まで

星野仙一

70歳 1月4日没
元プロ野球選手、元監督、
楽天球団副会長

中日の投手を経て、中日・阪神・楽天の監督に。2013年に初の日本一を東北地方にもたす。がん闘病中も仕事を続け、野球殿堂入り1年後に急逝

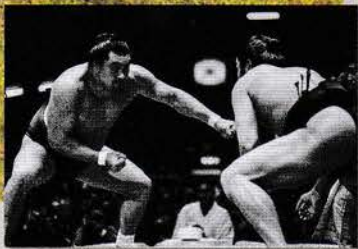


2014年10月7日、楽天Koboスタジアム宮城(当時)で、楽天監督として最後の試合後、ファンに挨拶

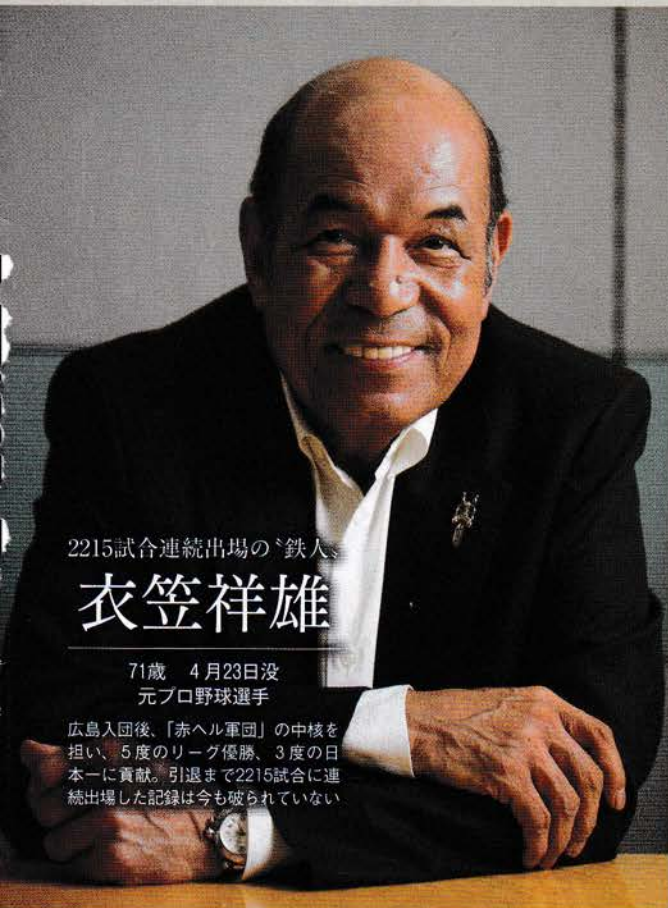
「黄金の左」を武器に一時代
輪島大士

70歳 10月8日没
元横綱

初土俵から3年半で横綱昇進。北の湖とともに「輪島時代」を築く。金銭問題による不祥事で日本相撲協会を退職し、プロレスラー、タレントに転身



1973年5月、輪島は、蔵前国技館で全勝優勝によって横綱を手にした



2215試合連続出場の「鉄人」
衣笠祥雄

71歳 4月23日没
元プロ野球選手

広島入団後、「赤ヘル軍団」の中核を担い、5度のリーグ優勝、3度の日本一に貢献。引退まで2215試合に連続出場した記録は今も破られていない



1968年、広島宮崎・日南キャンプで打撃練習を行う衣笠選手



『女子アナブーム』の先駆け

有賀さつき

52歳 1月30日没
タレント

フェリス女学院大卒業後、フジテレビ入社。同期入社の子野景子さん、八木亜希子さんと『女子アナブーム』の火付け役に。死因は本人の意思で非公表



劇団四季を創設

浅利慶太

85歳 7月13日没
演出家

慶応大在学中に劇団四季を結成。「キヤッツ」「オペラ座の怪人」「ライオンキング」などのロングラン公演を各地で行う巨大劇団に成長させた

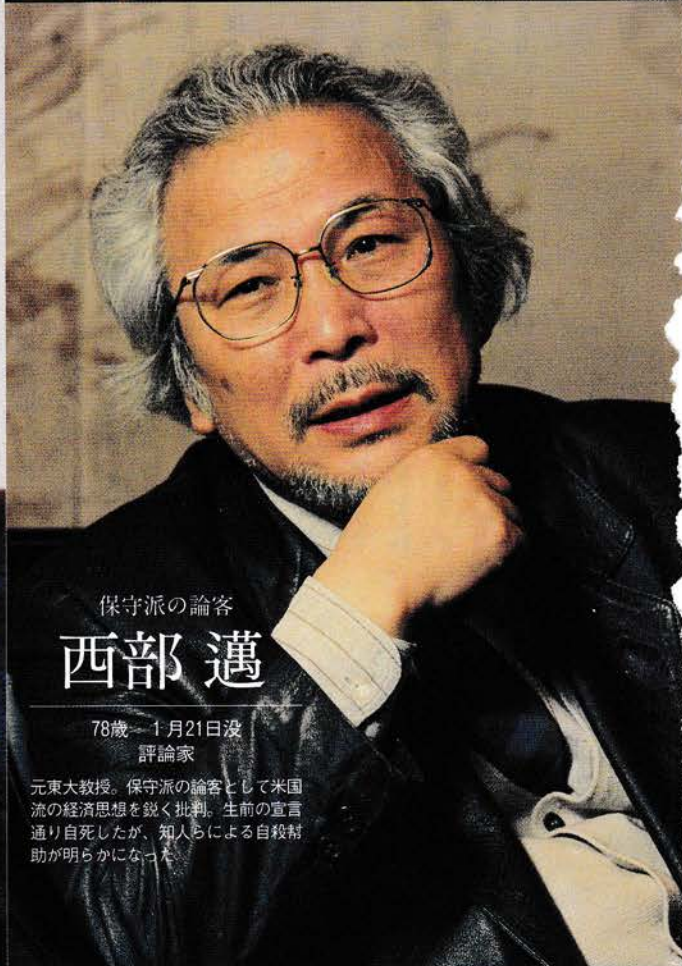


旅情ミステリーの名手

内田康夫

83歳 3月13日没
作家

コピーライターを経て作家へ。旅情ミステリー作家として各地の風景や人々の心情を描く。名探偵・浅見光彦シリーズは人気を集め、映像化された



保守派の論客

西部 邁

78歳 1月21日没
評論家

元東大教授。保守派の論客として米国の経済思想を鋭く批判。生前の宣言通り自死したが、知人らによる自殺補助が明らかになった